

vol. 53 2025



NHO TALK SESSION

特集 スペシャル座談会企画

NHO理事長 × 臨床研修医



RESEARCH

“研修を振り返って若手医師に
伝えたいこと”
指導医アンケート

SPECIAL

令和7年度 良質な医師を育てる研修
～ 病院勤務医に求められる総合内科診療スキル ～



HOSPITAL

病院クローズアップ
国立病院機構 新潟病院

PROGRAM

初期研修プログラムの紹介
国立病院機構 鹿児島医療センター



NHO TALK SESSION



特集 スペシャル座談会企画

NHO理事長 × 臨床研修医

国立病院機構(NHO)の新木一弘理事長と東京医療センターの臨床研修医4名による座談会を開催。NHOの研修環境、医師としてのやりがいや成長、未来を担う医師へ贈る理事長からのメッセージなど、対話を通して見えてきたNHOが目指す医療と“強み”、そして充実したキャリアを築くヒントとは――。



理事長
新木 一弘 あらき かずひろ

PROFILE

1985年 慶應義塾大学 医学部 卒業
1985年 厚生省 入省
2001年 厚生労働省 医政局総務課 医療安全推進室長
2003年 広島県 福祉保健部長
2006年 厚生労働省 医政局研究開発振興課長
2008年 文部科学省 高等教育局医学教育課長
2011年 社会保険診療報酬支払基金審議役
2012年 厚生労働省大臣官房付
2012年 南魚沼市立 ゆきぐに大和病院 院長
2013年 福島県立医科大学 客員教授
2016年 慶應義塾大学 医学部 特任教授
2017年 国立病院機構 東京医療センター 副院長
2020年 国立病院機構 東京医療センター 院長
2020年 国立病院機構 理事(非常勤)

NHO独自の教育研修を展開 確かな基盤形成に最適な環境

理事長…NHOは5疾病6事業、セーフティネット分野の医療等、さらに各地域の医療ニーズに対応するなど、国民の負託に応え続けることが重要な使命です。そのためには優秀な人材の確保が必要であり、若い先生方にとって「確かなスキルが身に付く」「着実に成長できる」といった魅力ある病院にしていきたいことが大切です。NHOでは以前から教育研修事業に注力しており、教育環境や研修プログラムの充実を図っていますが、みなさんは何に惹かれて東京医療セン



ターを研修先を選んだのでしょうか。
鈴木…私は小児科医を目指しているため、研修先の条件として小児・周産期に強く、かつ、幅広い基礎力もしっかり身に付けたいと思い診療科の充実した病院を探していました。当院は複数の候補のなかで最も理想的な病院でしたし、実家から近いことも魅力でした。小さい頃に何度か受診したことがあるのですが、スタッフが患者目線ですごく良い印象を持っており、当院を第一志望にしました。
本田…僕も同じく、当院は実家から自転車ですぐと近い場所にあり、住民からの評判も昔から非常に高い病院という印象です。都内にある市中病院も受けたのですが、第一志望はここだと最初から決めていました。
田中…私は産婦人科医を目指しているため、産婦人科が充実しており、初期研修のコースに「産科・婦人科医療プログラム」がある当院を志望しました。1年目の早くから、エコーや



内視鏡など、さまざまな手技をしっかり経験させていただき、かつ、丁寧な指導やフィードバックのお陰もあって、大きな成長を実感しています。
土居…僕の場合は進路が決まっておらず、幅広い診療科や症例を経験していくことで自分に合った進路を決められると思い、ほぼ全ての診療科が揃っており、救急にも強い当院を志望しました。1年が経って、いろんな科に触れ、幅広い症例を経験してきたことで、どの科も魅力的に感じてしまい、逆に進路に迷いが増えましたね(笑)。
田中…診療科が充実しているため院内でほとんどの研修を完結できますし、救命救急センターを有しているため1次から3次まで幅広い症例を学ぶことができます。医師としての強い基盤形成に最適な環境で、将来、どの診療科に進もうとも専門研修への移行がスムーズにできると感じています。
理事長…NHOでは全国140病院という国内最大ネットワークの特性を活かし、NHOの病院間における研修プログラムなどを通じて各病院が得意とする領域や、セーフティネット分



野の医療など一般の病院では経験できない領域の知識やスキルを学べることも他にはない独自の強みです。また、都市部と地方の病院では、求められる病院機能も医師の役割も異なってきます。「ここで求められていることは何か」をしっかり意識しながら研鑽を積むことで、一つひとつの経験に意義が生まれ、医師としての幅も広がるでしょう。

「ここでずっと働き続けたい」

そう思えるNHO病院に

鈴木…先生方はみなさん人間性も豊かで、相談もしやすく、研修医一人ひとりの性格や能力に合わせて丁寧に指導をしてくださいます。安心して研修に臨むことができる指導体制や雰囲気の良い大きな魅力だと感じています。

田中…コンサルトもしやすいですね。それと、救急外来では研修医がファーストタッチをするのですが、一人で責任を負うことは決してありません。上の先生に相談をして、きめ細かなアドバイスをいただきながら検査オーダーや治療方針を決めていきます。バックアップ体制がしっかりしているため、安心して救急や当直に臨むことができます。

土居…安心だからこそ救急や当直でも積極的に診療に臨むことができ、多くの症例を経験できたことで、1年後には適切な問診や最低限の検査によって入院か帰宅かを判断できるようになりました。安心して経験できる環境は大きく成長するためにとても大切な要素だと思います。

本田…どの先生にも声を掛けやすく、優しく教えていただけるのは、何かと不安の多い研修医にとって非常に心強い環境ですね。

田中…研修環境がとても充実しており、かつ働きやすい環境にあるため、専攻医として残る先生も多いです。私も専攻医として引き続き当院で研鑽を積みたいと思っています。

理事長…地域に親しまれ、信頼される病院であり続けるための一番の基盤となるのは、職員たちにとって“働きやすい”“やりがいがある”“頑張っている人が報われる”病院だと思っ

ています。若い先生方が、「専攻医として残りたい」「ここでずっと働き続けたい」と実感できる病院をつくっていききたいですね。

本田…全国のNHO病院の研修医たちと交流をしながら勉強ができる『良質な医師を育てる研修』や、当院では専攻医の先生が個人的に勉強会を開いてくださるなど、学ぶ機会が豊富にあることも嬉しいです。

理事長…NHOでは、毎年多彩なテーマで、全国のNHO病院の各領域のスペシャリストたちから実践知識やスキルを学ぶことができる『良質な医師を育てる研修』を開催しています。学びの場所は自院に限りません。NHOのスケールメリットを活かした学びの機会をどんどん活用してください。



求められるコミュニケーション力 “いま”を一生懸命に、誠実に

鈴木…医師になって驚いたことは、病院で働いている方々が想像以上に多くいることです。日々、大勢の多職種のみなさんに支えられ、助けていただいているからこそ、医師としての仕事ができているんだと感じています。

理事長…医師は多職種と協働するチーム医療のリーダーであり、各職種が専門性を最大限発揮できるチーム作りの要を担っています。質の高い医療を提供するために、今やどこで働こうともチーム医療は不可欠です。チーム医療のリーダーとしての自覚や多職種とのコミュニケーションを意識して研鑽に励んでほしいですね。

土居…コミュニケーションでいうと、研修を始めて実感したのは、一人ひとりの患者さんに最適な治療を提供するには、知識や技術はもちろん、患者さんの生活背景や考え方を知ることが重要であり、そのためにはコミュニケーションもすごく大切だということです。できるだけ患者さんと話す時間をとることを強く意識しています。

田中…総合内科を回っているとき、長期入院されている患者さんと毎日



会って話すうちに、患者さんから自然と笑顔が生まれるようになったんです。コミュニケーションの大切さを実感しましたね。

理事長…患者さんのバックグラウンドを考慮しながら、より良い人生を送ることができるようサポートするのが医師としての大切な役割であり、そのために必要なのは患者さんに対する誠実さとコミュニケーション力です。AIの登場など、将来、医療技術がどれだけ発展しても、そこは未来永劫、医師にしかできないことだと思います。将来にわたって必要とされ、信頼される医師であり続けるために、誠実さとコミュニケーション力は重要な基盤となるはずですよ。

本田…研修が始まった頃はできないことばかりで、「自分は医師に向いていないのでは」と感じることもありましたが。日々、経験を積み重ねていくうちに出来ることが着実に増え、今では目の前のことに誠実に取り組んでいけば、信頼される医師になれると思うようになりました。NHOの恵まれた研修環境を目一杯活用し、一生懸命に研鑽に励みたいと思っています。

理事長…キャリア形成で大切なことは、“いま”の仕事に誠実に向き合い、一生懸命に取り組むことです。私は大学卒業後、厚生省に入省し、最初は1、2年の社会経験のつもりでしたが、技官として27年間働きました。その後、新潟県の病院で臨床を一から学び、大学の特任教授、東京医療センターの院長などを経て、現在はNHOの理事長をしています。これまでの歩みに明確なキャリアプランがあったわけではなく、与えられた目の前の仕事に誠実に向き合い、取り組んできたことで進むべき道が見えてきました。たとえ望んでいない仕事でも、「あの時の経験が役立っている」と思う時が必ず来ます。“いま”を誠実に取り組み、充実したキャリアを築きながら将来の医療界を担うリーダーになってください。みなさんの活躍を楽しみにしています。

理事長との座談会を終えて

一般コース 臨床研修医 2 年目 土居 明弘



出身地：東京都
出身大学：帝京大学(2024年度卒)
宝 物：患者さんの笑顔
座右の銘：大事なものはどう生まれついたかではなく、どう育ったのかじゃよハリー

新木理事長は患者さんへの配慮は勿論のこと、私たち臨床研修医をはじめとする病院職員一人ひとりの働く環境や成長にも目を向け、病院経営にあたられている事を強く感じました。

産婦人科コース 臨床研修医 2 年目 田中 葉月



出身地：東京都
出身大学：山口大学(2024年度卒)
宝 物：家族
座右の銘：日々是好日

理事長のご経歴やNHOの構想を伺えたことは大変貴重な経験でした。お言葉の通り、日々を一生懸命に生き、医療の未来という広い視点も大切にしながら研修に励んで参ります。

一般コース 臨床研修医 1 年目 本田 滉



出身地：東京都
出身大学：日本大学(2025年度卒)
宝 物：環境
座右の銘：継続

理事長とお話できる機会があるとは思ってなかったのですが、貴重な経験ができました。座談会自体も話しやすい雰囲気を作って下さり有意義な時間となりました。

小児医療コース 臨床研修医 1 年目 鈴木 ありさ



出身地：東京都
出身大学：順天堂大学(2025年度卒)
宝 物：家族
座右の銘：思い立ったら吉日

経営陣から見た病院、医療についてのご意見を拝聴し、多くの気付きを得ることができました。また、アドバイスをいただき、より一層研修に励みたいと思いました。

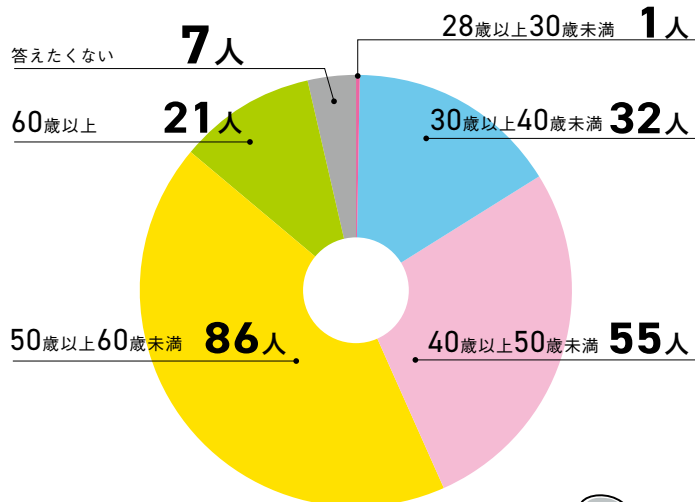
RESEARCH



国立病院機構の指導医 **202**人に

“研修を振り返って若手医師に伝えたいこと”をテーマに聞きました！

Q. あなたの年齢は？



Q. 休日の過ごし方は？



1位 家で過ごす	167
2位 家族と過ごす	149
3位 趣味の時間	82
4位 ショッピング	70
5位 身体を動かす(ジョギングなど)	69
6位 散歩	36
7位 飲み会などの交流	25
8位 食べ歩き	17
その他	13



(複数回答)

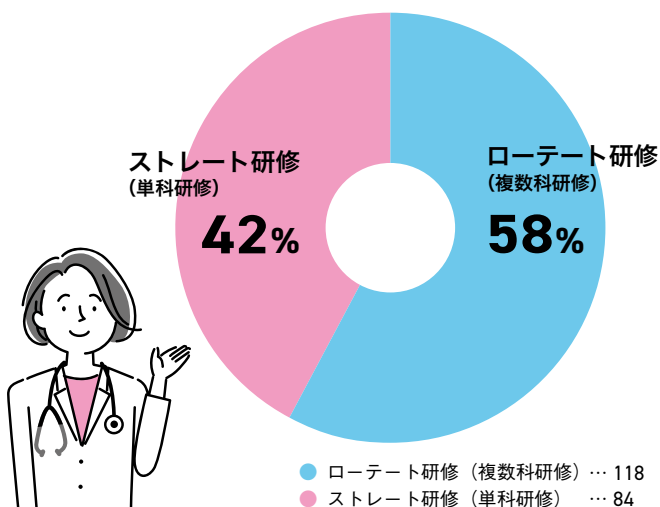
Q. ご自身が受けた研修内容について感想を教えてください

- 明確な目的意識をもって、興味がある科を初期から研修できた。
男性・1996年卒・ストレート研修(単科研修)
- 厳しい指導を仰げたから。患者さんを第一に考える癖を付けてもらった。
男性・1999年卒・ローテート研修(複数科研修)
- 多数の科を回ることによってその科の専門を学ぶことができ、かつ人脈も形成することができた。
男性・2007年卒・ローテート研修(複数科研修)
- 特に不満はなかったが、今の研修医のような研修をうけられたらよかったのになと思う。
女性・1995年卒・ストレート研修(単科研修)
- 専門科になった今でも、初期研修時代に身につけた知識や手技が役立っている。
また、ローテートすることで交友関係が広がった。
女性・1997年卒・ローテート研修(複数科研修)
- 非常に素晴らしい指導医に恵まれ、多くの症例、病態を経験させてもらった。
男性・2004年卒・ローテート研修(複数科研修)

Q. 初期研修を振り返り「もっとこうしておけばよかった」と思うことはありますか？

- 迷惑と思っても聞けばよかった。例えば救急など積極的に勉強すればよかった。
女性・2001年卒・ストレート研修(単科研修)
- 色々な科を幅広く回っておくべきだった。
男性・2022年卒・ローテート研修(複数科研修)
- 学会参加や、論文作成など、学術的な手法をしっかり学んでおけばよかった。
女性・1997年卒・ローテート研修(複数科研修)
- 学習、経験、交流(医師、多職種、患者さん)。真面目に振り返れば限りがないぐらいです。
男性・1989年卒・ストレート研修(単科研修)
- 将来選択しないと思っている診療科でも、この機会を逃すと学ぶタイミングがなくなるのでしっかり真面目に取り組むべきだった。
女性・2016年卒・ローテート研修(複数科研修)
- 積極的に、患者さんとコミュニケーションをとっておけばよかった。
女性・2000年卒・ローテート研修(複数科研修)

Q. どのタイプの初期研修を行いましたか



Q. 研修医が研修期間を通じて心がけるべきことや取り組む姿勢があれば教えてください

- 患者さんの前では医師免許を持ったプロです。自立して勉強し実践してください。
男性・2003年卒・ローテート研修(複数科研修)
- 将来志望しない科の研修を大切にすること。
男性・1997年卒・ローテート研修(複数科研修)
- 効率の良さばかりを求めず、じっくり考えじっくり対応する機会、苦労する機会をもつことが後々とても役に立つと思います。
男性・2006年卒・ローテート研修(複数科研修)
- 自分自身が主治医として、患者さんの生死に直接かかわっていると思って働いてほしい。
男性・2001年卒・ストレート研修(単科研修)



Q. 研修中に苦勞したこと、印象に残っていることがあれば教えてください

- 1年目の6月、胸痛で救急搬送された患者さんが目の前で心室細動になりました。経験の浅い看護師しかいない中、頭が真っ白になり、とりあえずBLSだけを開始。1分ほどで上級医が到着し、除細動ですぐに蘇生できました。心室細動には除細動が当たり前なのに、動揺すると抜け落ちると痛感した出来事でした。
男性・2011年卒・ローテーション研修（複数科研修）
- ストレート研修で皮膚科のみを回っていたため、1か月救急を研修した際、一般医としての力不足を痛感しました。フルローテーションで学ぶ若い研修医たちが羨ましく思えました。
男性・1996年卒・ストレート研修（単科研修）
- 放射線治療科で研修している時に、当時の教授の「世界を見てこい」という指示の元、アメリカの学会に連れて行ってもらった。その経験をもとに、自分も海外学会で発表したり、海外留学したりすることに壁を感じなくなった。
男性・2005年卒・ローテーション研修（複数科研修）
- 白血病の患者さんから、私の死を経験し、成長して、良い医者になってくださいといわれたこと。
男性・2001年卒・ストレート研修（単科研修）
- 暴れている患者さんを体を張って止めたこと。
男性・2002年卒・ローテーション研修（複数科研修）



Q. 初期研修医におすすめしたい学習法や生活習慣があれば教えてください

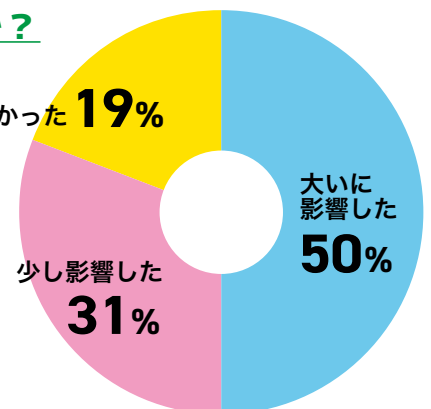
- 働き方改革は大切ですが、可能な限り現場に立ち会って学んでください。間違いを恐れず、上級医に相談する前にはベストを尽くした自身の見解をカルテに記載してください。
男性・2003年卒・ローテーション研修（複数科研修）
- やりたくないなと思うことが、今一番やらなければいけないこと、という意識を持つこと。
男性・1988年卒・ストレート研修（単科研修）
- 患者さんに学ぶこと。
男性・1986年卒・ストレート研修（単科研修）
- 運動習慣を身につけた方がよいです。学生と違って仕事は体力勝負です。
男性・2006年卒・ローテーション研修（複数科研修）
- 先輩医師の経験に耳を傾けるのが良いのではないのでしょうか。ネット情報だけではなく。
男性・2001年卒・ストレート研修（単科研修）



Q. 「医師の働き方改革」は、臨床研修の教育・指導する側の医師に影響がありましたか？影響があった内容を教えてください

- 診療点数をあげる行為は削減できないので、限られた時間の中では教育が最も削減されやすい。実際教育目的のカンファレンスは大幅に減少した。
男性・2004年卒・ローテーション研修（複数科研修）
- 研修医の指導を時間内に優先するため、診療関連の業務を時間外に回さざるを得なくなることが少なくない。
女性・2006年卒・ローテーション研修（複数科研修）
- 産婦人科のような時間外に経験のチャンスが多い科では指導できることが大いに減ったと思います。
女性・2007年卒・ローテーション研修（複数科研修）

ほとんど影響はなかった



Q. 「医師の働き方改革」によって、時間内・外の勤務負担に影響はありましたか？影響があった内容を教えてください

- 良い意味でも悪い意味でも業務密度が増した。
男性・2004年卒・ローテーション研修（複数科研修）
- 効率性を重視するようになった。
男性・1988年卒・ストレート研修（単科研修）
- 同じ密度のことをより短い時間で行う必要がある。
男性・2000年卒・ストレート研修（単科研修）
- ファーストコールが研修医でなくなった。
男性・1993年卒・ローテーション研修（複数科研修）
- 無駄を省くのですが、長い目で見てそれが無駄なのかは検証が必要。
女性・1995年卒・ローテーション研修（複数科研修）
- 時間外を減らすよう努力するようになった。
男性・2009年卒・ローテーション研修（複数科研修）
- 時間外を減少させる力が外から働いた事は大変よかった。内部からはその力は働かない事が多いので。
男性・2004年卒・ローテーション研修（複数科研修）
- 今までは休日にも患者さんの回診にきていたが、今では休日はなるべく当直医に任せる方針になったおかげで、しっかり休めるようになってよかった。
女性・2016年卒・ローテーション研修（複数科研修）
- 時間効率を考える事は重要で、その点がプラスに働けば、大きな影響はない。ただし、時間配分により、患者さんや指導に無理が生じてしまう事が、影響していると思われる。
男性・1988年卒・ストレート研修（単科研修）



令和7年度 良質な医師を育てる研修 ～ 病院勤務医に求められる総合内科診療スキル ～



超高齢化社会で求められる どの科でも役立つ実践スキルを獲得

日常診療では複数の疾患をもった患者さんや「せん妄」「廃用症候群」の高齢患者さんもあります。こういった患者さんは治療のみでは退院が困難なケースも多く、生活環境まで含めた包括的な支援が求められています。臓器別の専門研修ではこれらの問題を系統的に学習する機会が乏しいため、NHOの総合内科スタッフを中心となり、2014年より「病院勤務医に求められる総合内科診療スキル」研修を開始しました。本研修では、患者さんの抱える療養上の問題に対処するための実践的な診療スキルを育成し、若手医師の間で総合内科診療への理解と関心が広がることが期待されています。

講師

長崎医療センター
総合診療科・
総合内科

山中 萌奈美

PROFILE

出身地：長崎県
出身大学：長崎大学(2018年卒)
座右の銘：当たり前のことを
当たり前になる医師になる



研修医時代

研修医へオススメの本

みんなで楽しく
ホスピタリストになろう！
エビデンスと実臨床の架け橋

永井 友基、松坂 俊、
橋本 知直、阿河 昌治（編集）



受講者

東広島医療センター
臨床研修医 2 年目

岡田 駿

PROFILE

出身地：広島県
出身大学：島根大学(2023年卒)
宝 物：家族・友人・同期
座右の銘：継続は力なり



この研修の特徴について——

山中…私は初期研修をNHO病院で行ってはならず、「良質な医師を育てる研修」を知ったのは後期研修医として長崎医療センターに入職してからです。「すごく勉強になり、しかも楽しい」という声を、受講者や講師の先生方からも聞いており、今回、講師側ですが初めて参加させていただきました。全国から集まった受講生のみなさんは積極的にロールプレイやディスカッションに取り組んでおり、笑顔も多く見え、楽しく学ばれている印象を受けました。「良質な医師を育てる研修」は、「明日から現場で活かすことができる実践スキル」やNHOならではの「独自性の高い学び」を得られることが特徴です。今回の総合内科診療スキルの研修では、『ユマニチュード』（フランス発祥のケアの技法や考え方）についてのレクチャーがありましたが、これは東京医療センターの本田美和子先生（総合内科医長）が日本の第一人者として取り組んでいるものです。受講者のみなさんは、他の医療機関ではなかなか触れることのない、貴重で有益な学びを得ることができたのではないかと思います。

研修に参加して得られたこと——

岡田…診察のコツ、救急外来や病棟

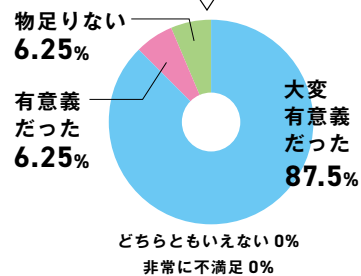
での対応など幅広く学びましたが、特に印象的だったのは、診療における“考え方”や“視点”を学んだことです。普段の研修では診断・治療方法にフォーカスした学びが多く、“考え方”や“視点”を学べたことは新鮮でしたし、「診断エラーの対応方法」も非常に勉強になりました。内容も具体的で分かりやすく、実践的で、直ぐにでも現場で活かすことができる有意義な学びを得ることができました。また、「良質な医師を育てる研修」は、全国のNHO病院から参加される研修医や講師の先生方と交流ができることも魅力です。情報交換をしたり、多様な考え方を吸収したり、幅広い人脈を築くこともできるなど、参加する意義は非常に大きいと感じています。

読者へのメッセージ——

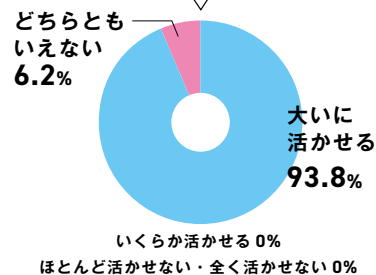
岡田…今回の研修に参加したのは、将来、消化器内科医として地域医療に貢献したいと考えており、そんな自分にとってうってつけの内容だったからです。実際に受講して、総合内科診療スキルの研修ではありますが、診療での“考え方”や

セミナー参加者の声

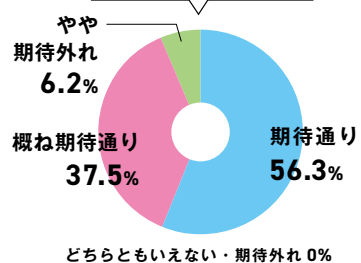
Q 研修の感想は？



Q 今後に活かせる？



Q 期待したとおりの研修内容だった？



“視点”、救急外来や病棟での対応などは、将来、どの科に進んでも活かすことができるものだと感じました。この研修は目指す診療科に関係なく、すべての研修医に自信をもって勧めることができる研修だと思いました。山中…超高齢化社会を迎え、多疾患併存患者が増加しているなか、医師に求められているのは総合力や各専門科への確にコンサルトができるスキルであり、この総合内科診療スキルの研修は、全診療科の医師にとって非常に役に立つ内容となっていることもポイントです。この研修で得たスキルを、普段の診療の場で実践することで新たな疑問や発見も生まれるでしょう。そこからさらに勉強をして知見を広げたり、その過程で興味のある分野を見つけ、知識を深めていったりと、この研修への参加をきっかけに超高齢化社会で必要とされる医師としての“幅広さ”を培ってほしいと思います。





国立病院機構 新潟病院

医療・福祉・教育を同時進行で提供
成長発達を支援し、可能性を伸ばす

新潟病院
院長
佐藤 晶

新潟病院
副院長
鈴木 俊明

新潟病院の特徴と 【Post NICU】の役割

佐藤…2014年に新病棟「こどもと
となのための医療センター」を開設。
難治性神経筋疾患、重症心身障害児
(者)の診療・福祉を担い、地域の二次
救急にも対応しています。「柏崎特別
支援学校」(小・中・高等部)が隣接し
ており、小児患者の医療・福祉・教育
の3つが有機的に同時進行で提供で
きる全国的にも珍しい病院であり、
県外からの患者さんも多くいます。

鈴木…濃厚な医療的ケアが必要で退
院できない患者の増加によるNICU
病床の逼迫や産科救急問題を解
決するために、当院では2009年に
NICUの後方支援病棟【Post-NICU】
を開設(開設時6床、現在は8床)しま
した。NICUやPICUでの治療後も濃
厚な医療的ケアが必要な子どもを受
け入れるなど、自宅で安全・安楽に過
ごせる橋渡しの役目を担い、リハビリ
テーション、療育・教育活動、生活支援
などを通じて子どもたちの持つ能力
や可能性を伸ばしています。

新潟病院の 【Post-NICU】機能について

鈴木…各種リハビリテーションに
よって体調の維持・改善に努め、体
調悪化時には、大学病院や地域の基
幹病院と連携する体制を整えています。
子どもたちの教育については、



療育指導室スタッフによる活動や、
学齢期には隣接する「柏崎特別支援
学校」からの訪問授業も実施。在宅
復帰後はレスパイト入院の積極的
な受け入れや、当院が運営する「通
所支援事業たんぽぽ」「訪問看護ス
テーションゆきさくら」で対応。「医
療的ケア中核病院」として保育園や
特別支援学校などで、学校生活上に
必要な医療的ケア(人工呼吸器の管
理やチェックなど)の支援を実施し、
さらに行政とも連携しながら【Post-
NICU】機能の充実を図っています。

若手医師へのメッセージ

鈴木…私は元々小児腎臓病を専門
とし、大学では透析や移植などに携
わっていました。その時、溶血性尿
毒症症候群のサッカー少年を担当し
ました。透析は離脱できたものの、
脳梗塞を合併してしまい、新潟病院
に転院するときは車いす状態でした。
その少年とは当院に入職した際に再
会したのですが、CP(脳性まひ)サッ
カーの日本代表選手として活躍して
いました。当院でのリハビリや療育
を頑張った話を聞いて、「こういう
関わりかたもあるんだ」と大きく感
動したのを覚えています。“成長を
診る”という医療のやりがいや醍醐
味をみなさんにもぜひ経験してほしい
と思います。

佐藤…人間の価値は「社会にどれだ

け貢献できるか」ではなく、障害者で
あっても、その存在自体が社会にとっ
て価値のあることです。障害者から
学ぶことは多く、私たちが生きる上
でのさまざまな価値観に影響を与え、
また障害者の自立や社会参加を支援
し、その実現を目指すことは豊かな
社会づくりにも繋がります。障害者
を診ることで、多様な価値観や生き
方を理解し、医師としての視野が広
がり、自分の人生観にも医師人生にも
大きなプラスを与えてくれるでしょう。
また、当院ではロボットスーツHAL®
など最先端のリハビリの応用や臨床
研究にも注力しており、充実のリハビ
リスタッフによって、生涯発達モデル

(生涯を通して進歩・成長・変化し続け
る)の視点を取り入れたQOLを高め
る“上向きのリハビリ”を提供していま
す。リハビリの概念が大きく変わる
医療もぜひ当院で体感してください。



国立病院機構 新潟病院

住所 〒945-8585

新潟県柏崎市赤坂町 3-52

WEB <https://niigata.hosp.go.jp>

病床数 **350** 床 診療科数 **11** 科

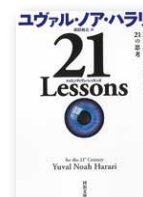
【診療科目】

内科、脳神経内科、小児科、外科、整形外科、
脳神経外科、リウマチ科、放射線科、
リハビリテーション科、歯科(入院患者
のみ対応)、心療内科

PROFILE

出身地：新潟県
出身大学：新潟大学
(1989年卒)
宝 物：ピアノ・友人
座右の銘：自由
研修医へオススメの本

21 Lessons
21世紀の人類のための21の思考
ユヴァル・ノア・ハラリ(著)



PROFILE

出身地：東京都
出身大学：新潟大学(1994年卒)
宝 物：家に代々伝わっている日本刀
座右の銘：ケセラセラ(なるようになる)

新潟病院のある街



新潟県柏崎市は、日本海に面した豊かな
自然と歴史、文化が息づく街です。美し
い海岸線や海水浴場、四季折々の景観が
魅力で、紅葉名所や茅葺き屋根の集落な
ど、どこか懐かしい日本の風景が広が
ります。地元の新鮮な海の幸や伝統の酒造
、花火大会など、食とイベントも充実。穏
やかな暮らしと観光の両方を楽しめる
地域です。



PROGRAM

プログラム紹介

初期研修プログラムの紹介

国立病院機構 鹿児島医療センター

手厚い指導と自由度の高い研修 充実の設備環境や専任秘書も特徴

鹿児島医療センター 消化器内科 部長／臨床研修管理委員長 森内 昭博



鹿児島医療センターの初期臨床研修について――

当院は病床数410床、診療科19を有し、前身は1945年開設の国立鹿児島病院から始まる歴史と伝統のある病院です。「循環器」・「脳卒中」・「がん」を3本柱とし、循環器疾患や脳血管疾患の救急・急性期医療に強い病院です。がんについては、2006年に「地域がん診療連携拠点病院」に指定され、耳鼻咽喉科、皮膚腫瘍科は周辺地域における数少ないがん治療施設であり、特に皮膚腫瘍科は全国にも珍しく、手術実績は九州随一を誇ります。

鹿児島大学病院との関係性が深く、大学の教官経験者が多く在籍しており、さらに臨床研究部が設置されているなどアカデミック面に強いことも特徴です。

協力型臨床研修病院・施設が豊富で、他病院の研修医、先生方との交流を通して幅広い視野と人脈を培うこともできます。

協力量型臨床研修病院・施設が豊富で、他病院の研修医、先生方との交流を通して幅広い視野と人脈を培うこともできます。

VOICE × 臨床研修医

働きながらしっかり学び、医師の礎を築く

臨床研修医 1 年目 井上 雄大

私は循環器に興味があり、当院では多くの循環器症例に携われることや、心臓カテーテル手術に研修医が参加できる点に魅力を感じています。救急では命の現場に立ち会い、医師として最善を尽くす姿勢や心構えを学び、医師としての基礎を築いていることを実感しました。意欲のある方には多くの学びや挑戦の機会がある研修環境です。

PROFILE

出身地：鹿児島県
出身大学：鹿児島大学(2024年度卒)
宝物：家族
座右の銘：不撓不屈



フィードバックが充実。手技機会も豊富です

臨床研修医 2 年目 秋元 あこ

見学時に、研修医の先生方の手技に対し、指導医の先生方が丁寧にフィードバックをされている姿を見て当院での研修を志望しました。充実した指導体制のほか、協力型病院が多く、個々の希望や目標を叶えるための最適なプログラムが組めることも魅力。手技機会も豊富で、能動的に研修に臨めばいくらかでも成長できる病院です。

PROFILE

出身地：鹿児島県
出身大学：鹿児島大学(2023年度卒)
宝物：家族
座右の銘：前途洋々



充実設備の研修医室が完備されており、事務業務や研修プログラムの調整などをサポートする研修医専任秘書がいるなど、研修に専念できる環境も魅力でしょう。生活設備を完備した研修医用宿舎も併設されており、鹿児島市内の協力型病院での研修であれば当院の宿舎から通うことも可能です。

プログラムの特徴について――

内科系(24週)、外科系(8週)、救急部門(12週)、小児科・産婦人科・精神科・地域医療(各4週)、一般外来(4週)を必修とし、自由選択期間が32週と長いことが特徴。当院や豊富な協力型臨床研修病院・施設の中から診療科を選択することができ、一人ひとりの目標や目指すキャリアに沿ったオーダーメイドプログラムを作成することが可能です。

研修医の定員は一学年15名ですが、きめ細やかな指導ができるよう、各科をローテーションする研修医は最大でも3名までに調整しています。準夜勤の救急当番や、一部の診療科で夜勤・土日祝日の日勤がありますが、研修医には当直がないことも特徴です。

読者へのメッセージ――

どんなに優れた研修環境であっても、医師としてどれだけ成長できるのかは本人の意欲と努力次第です。研修医のみなさんには意欲を持って主体的にどんどんチャレンジし、実践経験を数多く積み重ねてほしいと思います。「これがしたい」「こ

んなことをしてみたい」という、みなさんからの積極的な要望によって、当院が研修病院としても大きく成長できることを期待しています。

また、研修期間をより有意義に過ごすためには、できるだけ早期に目標を決めることも大切です。目標が明確になることで、研修プログラムの選択肢に意味が生まれ、一つひとつの経験がより濃密なものとなり、同じ研修期間であっても得られる成果は大きいでしょう。



PROFILE

出身地：宮崎県
出身大学：鹿児島大学(1995年卒)
宝物：家族との時間
座右の銘：「慌てない慌てない
一休み一休み」

研修医へオススメの本

医師による医師のための
ChatGPT 入門
大塚 篤司(著)



国立病院機構 鹿児島医療センター

住所 鹿児島市城山町 8 番 1 号
WEB <https://kagomc.hosp.go.jp>

病床数 **410** 床 診療科数 **19** 科

鹿児島医療センターの特徴

鹿児島医療センターは、西郷隆盛が設立した私学校跡地に建てられており、歴史と伝統を有する病院である。鹿児島市の中心部に位置し、循環器やがん治療をはじめとした多様な診療科を展開している。2018年春には410床へ増床し、県内有数の基幹病院として、急性期から終末期医療、一般診療から高度医療まで幅広い分野をカバーしている。都市型医療と地域医療の双方に対応し、1次から3次救急までバランスの良い研修が可能である。精神科や地域医療分野については協力病院での研修を実施している。多様な経験が積める研修環境が整っている。



BACK NUMBER × バックナンバー
過去の「NHO NEW WAVE」が
WEBサイトから閲覧できます！

https://nho.hosp.go.jp/education/education_nho.html

NHO ニューウェーブ 検索



NHO 本部公式
SNS アカウント

本部のSNSで発信したい情報があれば広報係までご相談ください！

facebook

X



NHO NEW WAVE

読者アンケート実施中！

◀左記二次元コードよりご協力ください